佐潟 魅力新聞

赤塚小 Bチーム

魅力がいっぱいの佐潟の自然

佐潟のよさは植物が多く自然が豊かなところが良いと思いました。
春には、桜との佐潟で水面に散った桜が浮いてきれいでした。
夏には、生き物が多くバッタ、ゼミ、クワガタがいて自然豊かだと思いました。
秋は紅葉がきれいで地面一面に散りきれいでした。
冬には、白鳥が来て白鳥が空を飛んでるのを見れます。
冬の景色と白鳥がきれいです。

海とつながっている佐潟の魚

佐潟は、海とつながっていました、そのため、
淡水魚、海水魚、汽水魚が同時に見られるのが特ちょうです。
湿地なので魚は主役というより、水鳥のためのえさいです。
人の手を極力入れない自然がたもたれています。

(9/9にさつえいした佐潟からとったしゃしんです。)



(9/9にさつえいした潟ぶねです。)





潟に海賊船舶が？ 佐潟伝言説

佐潟の伝言説

佐潟の海賊船の伝説

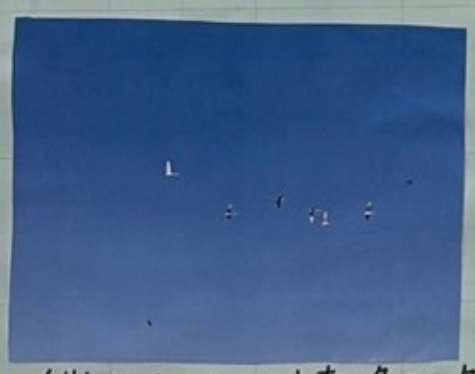
佐潟は大昔湖の一部に海賊船が沈んでいました。潟に入って足で探ると、帆柱と思われるものが泥の中にあったといわれています。海賊船舶だから宝物を積んだまま埋まっているのではないかと言われています。

船伝説

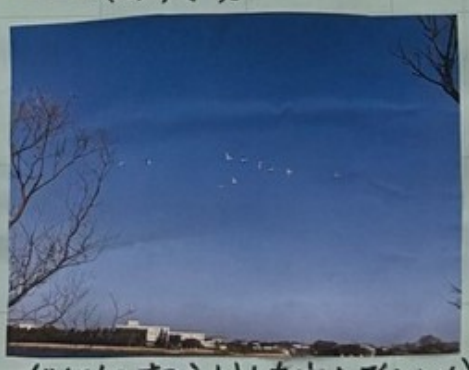
ふなだま様という日本でんとうてきな舟谷や漁船宿ると信じられています。公開安全やたいりょうをもたらす女性の守護神です。舟谷に危険が迫るとチリンチリンとすずのような音を鳴らして知らせる、または風金令のような音を知らせてくれます。



(9/9にさつえいしたハスのようすです。)



(9/9にさつえいした冬のハクチョウのようすです。)



(9/9にさつえいした空を飛ぶ鳥のようすです)

佐潟はいつからあった？ 佐潟の歴史

1300年以上前から現在の姿に近い砂丘と湧水による砂丘池月として存在していました。
周辺には、砂丘があり、松林が形成されていた。昔は潟のハスが食料や工芸材料に使われ、花火場と呼ばれる場所で蓮根採りが行われるなど、住民の生活と密接に結びついた里潟でありました。
周辺の農業開発(乾田化)や水路のコンクリート化により、一時的に生態系が変化しました。1996年にラムサール条約に登録され現在は日本最大の砂丘湖として、650種以上の植物、1000種以上の昆虫類が記録されています。毎年冬には3000羽以上のコハクチョウが飛来する、全国有数の越冬地となっています。500年前は生活の場であった場所が、現在は豊かな生物多様性を守る自然のオアシスとして保全されています。
2026年ラムサール条約登録30周年を迎え、希少な動植物の保護と賢明な利用を永続永続。地域の歴史遺産を辿るまち歩きもさかんです。

まとめ

- ハスを復活して潟舟に乗り、綺麗な佐潟をみたいです。
- ハスや佐潟のことをもっと色々な人に知ってもらいたいです
- 佐潟の自然をこれからも大切にしていきたいです。
- 潟全体にハス復活させたいです。
- 佐潟のハスを復活させて新潟県、日本世界の人達にもっと知ってもらって有名にしたいです。

ハスをこれからも守っていきたいです。

佐潟の短歌

短歌

もも色で
復活願う
一面に
昔の景色
また見るために

参考引用文献
- 潟のデジタル博物館
https://www.niigata-satokata.com/learn/sakata/
- 新潟市
https://www.city.niigata.lg.jp
- 環境省
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/migratory/ap_wr_transit23/site_gaiyo/150_sakata.html
- 赤塚小学校地域ボランティアの皆様によるお話